文化ウィーク実行委員会活動報告

国際日本学部　日本文化学科　2年　小川雅美
国際文化交流学科　1年　菅原渚沙　鈴木光

神奈川大学外国語学部国際文化交流学科、国際日本学部の文化ウィーク（学部祭）実行委員会です。私たちは、年に数回のイベント企画・運営を行っています。今年度はキャンパス内イベントとオンラインイベントを合わせて3つのイベントを開催しました。

1. Bunkademy Awards 2021

『Bunkademy Awards』は新型コロナウイルスの影響で対面イベントができなくなってしまった代わりに、昨年度に生まれたオンラインイベントです。学生たちが作成した1～5分の動画を学生と教員に投票・審査をしてもらい、素晴らしい作品を決める動画コンクールです。

昨年度は非常に好評だったため、対面イベントが可能になった今年度も引き続き開催することになりました。また、オンラインイベントという特性を活かして、今年度は参加できる学生を国際日本学部に限定せず神奈川大学の学生全体にしました。

本イベントでは、部門を3つに分けて投票や審査を行いました。自分の想いや趣味、特技などを動画にした「アピール部門」、日本文化や外国文化の紹介、旅行風景などを動画にした「文化・芸術部門」、母国語以外の言語を使ったプレゼンなどを動画にした「言語部門」の3部門です。

今年度は昨年度に比べて学内の対面イベントが増えたからか、投稿された作品数と投票数が共に減ってしまい、参加できる学生の対象を拡大したにも関わらず昨年度ほどの盛り上がりはなかったというのが反省点です。そのため、文化ウィーク（学部祭）実行委員会の知名度を上げるため広報に力を入れることが今後の課題であると考えられます。

結果発表が終わった今でも、文化ウィーク（学部祭）実行委員会の公式ホームページからBunkademy Awardsにエントリーした動画作品を見ることができます。どれも素晴らしい力作揃いなのでぜひご覧ください。

2. 多文化交流フェスタ

2021年10月27日に『多文化フェスタ』を開催しました。今回は、「お笑い」をテーマに、ゲスト講師による講演と本学の留学生によるプレゼンを行いました。

初めに、ゲスト講師として、日本人とカメルー

『多文化交流フェスタ』での委員の集合写真

ン人のハーフであり、お笑い芸人のぶらっくさむらいさんをお招きし、講演をして頂きました。音楽に乗せ、「ごみの分別が多いこと」や「多機能ベスト」といった、日本に特有な文化をテーマにしたネタを披露してくださり、会場内はとても盛り上がりました。

次に、本学の留学生にプレゼンをして頂きました。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で、事前にオンラインでインタビューをしたものを録画し、それを流すような形式で行いました。「自身の国で好きなコメディアン」、「自身の国で好きなコメディ作品」、「自身の国にあるお笑いのイベントや祭典」について紹介して頂き、最後に「日本のお笑いのツッコミで人を叩くことについて」の質問に答えて頂きました。それぞれの国の「お笑い」の特徴や日本との類似点、相違点を知ることができ、とても興味深いプレゼンとなりました。

最後に、本学の歴史民俗学科の有志ゼミ生に、「麦殿大明神」についてのプレゼンをして頂きました。「お笑い」というテーマに合わせ、面白く編集された映像や発表者の言い回しが印象的でした。

今回のイベントで、「お笑い」という1つの文化を通して、多文化に対する興味や関心を深める良いきっかけになったのではないかと思います。来年度については未定ですが、「文化」に対する興味を促せるようなイベントを企画・運営していきたいと思います。

3．第一回文化の祭典

２０２１年11月30日に神奈川大学みなとみらいキャンパスにて第一回となる『文化の祭典』を開催しました。今年度の『文化の祭典』では、各学科の有志団体、ゼミナールなどからの出演がありました。それぞれの団体の発表の中から見に来てくださった学生と教員の投票、審査によって最優秀賞、優秀賞を選出しました。

各々の団体が素晴らしい発表をしてくださった中、ひときわ目立っていた演目が、国際文化交流学科２年の沖元太紀さんによる「Rakugo in English」です。２番目の発表ということもあり、客席も十分に盛り上がった状態からスタートしました。落語と言われると、独特な口調や日本語を思い浮かべるかと思います。そのような落語を英語で行うことは、とても難しいことだと感じるのではないでしょうか。しかし、実際の発表は非常に簡単で分かりやすい英語で構成されており、会場は笑いの渦に包まれました。最終的に「Rakugo in English」は今年度の最優秀賞を受賞しました。「Rakugo in English」は教員からの投票では優秀賞の演目と同点1位でした。しかし、学生投票の結果では、優秀賞の演目と70票という圧倒的な差をつけて1位に輝きました。このような点から「Rakugo in English」の人気は絶大なものであったと感じました。

『文化の祭典』での参加者・委員の集合写真